

平成31年第6回教育委員会会議

平成31年4月10日

午後 4時 0分 開会

1 開会宣言

○葛西教育長 では、ただいまから、平成31年第6回教育委員会会議を開会いたします。
会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○長谷川教育総務課長 本日、高橋指導課長が欠席でございまして、草川副参事が代理出席をさせていただいています。

また、議案第18号の説明者として、中根市民文化部次長兼市民生活課長にご出席をいただいています。以上です。

○葛西教育長 傍聴者はお見えですか。

○川喜田教育総務課主事 傍聴者はありません。

2 会議録署名者の決定

○葛西教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。本委員会の会議録署名者として、豊田委員と鈴木委員とで行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、提案どおり決定いたします。

3 議事

(1) 議案

議案第18号 専決処分の報告及び承認について（四日市市地区市民センター処務規程の一部改正について）

○葛西教育長 それでは、これより議事に入ります。

議案第18号、専決処分の報告及び承認について（四日市市地区市民センター処務規程の一部改正について）の説明をお願いします。

○中根市民文化部次長兼市民生活課長 恐れ入ります。市民文化部次長兼市民生活課長の

中根でございます。どうかよろしくお願ひいたします。

私からは、4ページをお願ひしたいと思ひます。

中段でございますが、先ほどお話がありました四日市市地区市民センターの処務規程の一部改正についてご説明をさせていただきます。説明につきましては、おめくりいただきまして、6ページ、議案参考資料でお願ひをいたします。よろしいでしょうか。

改正の背景といたしまして、地区市民センターの分掌事務としまして、地域社会づくり推進委員会に関する事務が規定されております。現状、地区市民センターにおいて当該事務を行っていないため、規程を削除しようとするものでございます。この四日市市地域社会づくり推進委員会は、平成2年に地区市民センター主導の地域社会づくりから、住民が主体的に行う地域社会づくりへ牽引していく組織として各地区に設置され、地域の特性を生かしたまちづくりと地域連帯意識の高揚においてリーダー的な役割を担い、地区内の団体をまとめ、自立した地域団体運営ができる素地をつくってまいりました。

平成15年には、その素地をもとに、地区市民センター内に地域社会づくりの推進母体となる団体事務局を設置し、地域社会づくり総合事業費補助金により、地区の意思で地域性のある事業を展開できる体制を整備しました。そういったことから、四日市市地域社会づくり推進委員会につきましては、平成15年に委員の任期が切れた後には、新たな委員を委嘱せず、その役割を終えたものとして、平成19年に廃止されたものでございます。この19年に廃止以降、見直しができておらず、今回の削除ということで、非常に時期が逸したことににつきましては深く反省をしておるところでございます、何とぞご承認のほどお願ひしたいと思ひます。

私からの説明は以上でございます。

○葛西教育長 今、中根市民部次長から説明があったとおりですけれども、いかがでしょうか。これは、当然このように処理をしなければならないという事項ですので、おくれたとはいえ、きちっと処理をしていきたいと思ひますので、提案どおり決定いたします。

**議案第19号 専決処分の報告及び承認について（平成31年4月1日付け市費支弁職員
の人事異動について）**

○葛西教育長 それでは、続いて、議案第19号、専決処分の報告及び承認について（平成31年4月1日付け市費支弁職員
の人事異動について）の説明をお願ひいたします。

○長谷川教育総務課長 教育総務課でございます。よろしくお願ひいたします。

資料につきましては7ページでございますが、議案第19号、専決処分というところで、4月1日付の事務局の人事異動につきまして、専決処分をさせていただいたものを承認をお願いするものでございます。

8ページをお願いいたします。

管理職員の配置につきまして表にまとめております。変更と申しますか、異動のありましたところを順番に申し上げますと、まず、4番目でございますが、中村理事が退職というところで、こちらはそのまま理事職はなくなるというところでございます。

それから、8番目、教育総務課の政策グループリーダーが、稲毛から田中に変更となっております。

また、学校教育課長が海戸田課長から内村課長にかわっております。

そして、16番目でございますが、社会教育課副参事と書いてございますが、青少年育成指導室長でございます。小林室長から渡瀬室長に異動されております。

そして、人権・同和課の副参事兼補佐が転出になりまして、こちらは、副参事で補佐ということではなくて、補佐級の補佐でございますので、斜線となっております。

それから、22番、指導課の副参事兼2係長の北村先生が、異動で草川副参事というところでございます。

また、その下は指導課、これは、子ども未来部の副参事というところで、幼稚園教諭ですが、刑部先生から水谷先生というところでございます。

そして、教育支援課長も、川邊先生に交代で中村課長というところでございます。

また、研修・研究グループリーダーの世古先生から、元特別教育相談グループリーダーが研修・研究グループリーダーになりまして、その後、須川副参事というところでございます。

また、登校サポートセンター担当というところで、新たに教育支援課に福井副参事を配置しております。

そして、博物館副館長が川口元副館長から廣瀬副館長に変更というところでございます。

また、伊藤博物館副参事は退職というところでございます。

そして、幼稚園でございますが、こちらにも記載の異動がございます。

あと、全体的なお話といたしまして、今年度の人事異動につきまして、記者発表のあった内容を簡単に申し上げますと、全市的に異動規模として829名というところでございます。昨年が883名ですので、若干は減りますが、人事課ですと、平年並みと申します。

か、特に組織、機構が、今回、介護高齢福祉課の分裂や国体推進課が国体推進、国体競技課と、分裂というところも含めて、平年並みの異動規模でございましたというところがございます。

簡単ではございますが、説明は以上です。

○葛西教育長 これは、このとおり採決をというようなことになろうかなと思います。

では、採決とさせていただきます。

それでは、ここで、事務局の自己紹介をお願いします。副教育長から順に自己紹介をお願いします。

○松岡副教育長 副教育長2年目になります松岡でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○廣瀬教育監 教育監2年目となりました、廣瀬です。よろしくお願い申し上げます。

○田中政策推進監 引き続き政策推進監兼同和行政推進監ということで、田中です。よろしくお願いいたします。

○長谷川教育総務課長 教育総務課長の長谷川でございます。今年もよろしくお願いいたします。

○広瀬教育施設課長 教育施設課長の広瀬でございます。2年目になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

○川尻社会教育・文化財課長 社会教育・文化財課、課長の川尻と申します。3年目になります。よろしくお願い申し上げます。

○大森図書館長 図書館長2年目でございます。大森でございます。よろしくお願いいたします。

○廣瀬博物館副館長 この4月から博物館副館長となりました廣瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○中村教育支援課長 失礼します。この4月から教育支援課長としてお世話になることになりました中村です。よろしくお願いいたします。

○相馬人権・同和教育課長 人権・同和教育課長の相馬でございます。2年目になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○草川指導課副参事兼課長補佐兼第2係長 今年度からお世話になります指導課の副参事・課長補佐の草川でございます。よろしくお願い申し上げます。

○内村学校教育課長 4月から学校教育課参事兼課長を拝命いたしました内村でございます。

す。よろしくお願いいたします。

○葛西教育長 以上のメンバーで今年度取り組んでまいります。課題がたくさんございますけれども、今年度決着できるものについては適切に決着をしていきたいと思っておりますので、そのつもりでメンバーも頑張ると思っておりますので、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

(2) 報告

平成31年度教育委員会主要課題について

○葛西教育長 それでは、報告事項に入ります。

平成31年度教育委員会主要課題についての説明を各所属長からお願いいたします。

○長谷川教育総務課長 では、別冊の資料でございます。平成31年度教育委員会主要課題についてという資料を各課の順番で並べておりますので、この資料に従いまして各課長からご説明をさせていただきます。

まず、めくっていただきまして1ページ、教育総務課でございます。2点、主要課題として挙げさせていただいております。

まず、1点目が、学校規模等適正化の推進、適正化というところでございます。

毎年、適正化計画に基づきまして、まず、小中の検討対象校であるとか、全市的な適正化に向けた取り組みを進めておりますが、特に今年につきまして、課題としましては、昨年度の検討の中で、中学校のブロック案というのをお作りさせていただきました。そしてまた、中学校には、E判定の学校で適正化の取り組みを進めなければならない学校がございますので、そのあたり、話し合いの仕組みづくりをしっかりと取り組んでいきたいと考えております。各地区を回りまして、中学校ブロックの案の考え方を周知させていただきまして、ブロック案を詰めていきたいと思っております。

また、喫緊の課題が、規模の確保、適正化を進める必要があるブロックにつきましては、話し合いを進めていきたいということを地域に申し上げて、話し合いを開始したいという思いでございます。これがまず1点目でございます。

2点目が、新しい学校教育ビジョンの策定というところでございます。

1つは、今、第3次の学校教育ビジョン、この期間が平成32年度で終期を迎えるということで、今年度、来年度というところで、新たなビジョン、それから、現在、次期総合計画を今年度に策定というところがございます。こういうところを見据えまして、まず、

総合計画との方向性の整合性を図る。そして現行ビジョンの課題を検証、また総括というところで、しっかり結果を新しいビジョンに反映させる。そして新学習指導要領、それから働き方改革等々、教育を取り巻く環境の変化、しっかり将来を見据えたビジョン、こういうことを考えていきたいと。

今年度は、まず、第3次のビジョンの取り組みの総括、そして策定へ向けた原案へ向けた話し合いや教育課題検討会議等の開催というところを考えております。

教育総務課は以上です。

○広瀬教育施設課長 続きまして、教育施設課でございます。

2ページ目をお願いいたします。

教育施設課の31年度の主要課題は3点ございます。

まず、1点目でございます。長寿命化計画策定でございます。

概要としましては、四日市市には、公共施設等総合管理計画とあって、今までの対処療法的な事後保全ではなく、計画的、予防保全にシフトすることとともに、長寿命化を図るための計画があります。その計画に基づいて、文科省から個別施設ごとの長寿命化計画を策定することが望まれておりますので、その計画について策定を行っていくというのが概要でございます。

課題と今後の対応でございますが、計画を立てるに当たり、昨年度は、既設施設の劣化等の状況調査を行いました。その結果、建物の建設年度順に劣化が進んでいるわけではないことがわかってまいりました。そのため、従来の改修工事の時期や手法を十分に検討し、計画を策定していきたいと考えております。

2点目でございますが、大矢知興譲小学校普通教室不足対応でございます。

概要としましては、平成34年度からの教室不足に対し、全面改築ではなく、校舎増築で対応していくということでございます。課題と今後の対応でございますが、方針の変更や校舎増築案について、地元保護者や新議員に説明を行うとともに、増築や既設校舎の改修内容、工事スケジュールについて詳細な検討を進め、その設計業務の委託料を6月議会で補正予算要求を行う予定をしております。

3点目でございます。小中学校の空調設備整備についてでございます。

概要としましては、今年度末までに、小学校37校、中学校22校の普通教室約1,000室に空調を整備する事業でございます。課題としましては、昨年度末に、事業者と契約を行い、現在事業者が、各学校ごとに綿密な事業計画を立てているところでございます。

その計画どおりに工事を進めるためには、やはり学校の理解と協力が必要不可欠であると。どれだけ協力をしていただけるかが課題となっていると考えております。これについては、十分に説明を行い、ご協力をしていただいて、何としても今年度中に整備を行っていききたいと考えております。

今後の対応ですけれども、普通教室の空調設備については、事業計画に基づき、各学校と調整を行っていくということです、空調の未整備部分の導入についても、あわせて検討を行っていききたいと考えております。

以上でございます。

○葛西教育長 まずここまで、教育総務課と教育施設課、非常に大きな課題があるわけですから、ご質問等がございましたらお願いいたします。

○渡邊委員 長寿命化のことですけど、これは、国からも言われているということは、国からも補助金なんかが将来出るということですか。それから、長寿命というのは、今までのタイムスパンと、それからさらに長寿命化するって、何十年ぐらいなのか、その辺のめどなんかを教えてください。

○広瀬教育施設課長 教育施設課です。

今、四日市が、まず個別の長寿命化計画を立てる大もとの計画として立てている計画がございまして、例えば、RCの、要は鉄筋コンクリート造の校舎については、今までは耐用年数を60年と考えておりました。それを、大規模改修とか、手を加えることによって、70年間もたせようということで、10年間の延命を行っていききたいと考えております。私ども、当然、今から立てる計画につきましても、70年を使えるように、大規模改修のタイミングをどのタイミングですとか、そういったことも踏まえて計画を策定させていただきたいと考えております。

○葛西教育長 これは国から？

○広瀬教育施設課長 文科省から、そういう各市が立てた計画に基づいてつくりなさいということで通知もあり、32年度までにその計画を立てなさいということで指示も出ております。また、補助に対してですけれども、この通知が出た当初は、補助とは関係ないというお話をいただいておりますが、年々文科省の言うことが変わってきておまして、補助の対象というか、この計画がないとなかなか補助金が出ないよというような今はレベルの表現でございます。

○渡邊委員 今までよりも10年長くするという事は、今まで立てた計画よりも相当き

つちりと、さらに強く、10年延長するんですから、強化しなくちゃいかんというようなふうに思いますが、相当な見直しに手間暇かかるんですよね。どうですか。

○**広瀬教育施設課長** 今までは、どうしても、例えば校舎の雨漏りがしたら防水を治すというような事後保全的な対応をしてきておりますので、まずは、長寿命化となると、予防保全という形で、壊れる前に改修を耐用年数が来たらしていくというところへシフトをしていきたいと思っています。ただ、それにシフトしようと思うと、今、まだ、既に耐用年数が過ぎた部分というのが非常に多くあるということで、それをいかに潰しながら、どこかで予防保全に切りかえていく、その年代をどこにしようとかいうので、とりあえず昨年度、今の校舎の現状について調査をさせていただいたところですので、それを分析して、シフトできるタイミングをどこにするかというようなことも踏まえて計画を立てていきたいなと考えております。

○**渡邊委員** ある程度理解できました。ありがとうございます。

○**葛西教育長** よろしいでしょうか。

それでは、ソフトに行きます。指導課、お願いします。

○**草川指導課副参事兼課長補佐兼第2係長** 指導課です。

SSW・SCの拡充についてということでございます。

問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に向けた取り組みを一層進めてまいりたいと思います。

現在、課題としましては、SSWの活用というのは大変有効ではあるんですが、まだまだ派遣型の活用でありまして、時間数的に足りない、例えば1週間に1回、あるいは2週間に1回というような程度の派遣になっております。より早く、有効的に、効果的に活用するためには、派遣方法について検討していく必要があると思っております。SCの配置についても、たくさんの必要とする学校、子ども、保護者がみえますので、さらなる拡充が必要であると思います。

今後の対応につきましては、まず、1つ、モデル校的に、従来の派遣型ではなしに、拠点、巡回型のものをつくりまして、効果、成果を見きわめて、それを拡充していくという方向を考えております。同様に、SCも、チーム学校として、こうしたアプローチができるような方法を検討してまいりたいと思います。

2番、新教育プログラムの作成については、ごらんのとおり、32年度、新教育プログラムを実施しまして、四日市市の教育についての方向性を示してまいりたいと思います。

ワーキンググループで設置をしまして、教育委員会全体での共通理解を図りながら、実効性のある教育プログラムを作成していくということで、今後、学校現場へどう浸透を図るかというところ辺が課題となっております。

今年度も、ワーキンググループを中心に、より具体的な取り組みを創造しまして、教育委員会で協議していただくとともに、いろんなところで浸透させていく手だてを実施してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○葛西教育長 それでは、学校教育課。

○内村学校教育課長 学校教育課です。

学校教育課からは、中学校給食事業、それから学校業務サポート事業、2点の事業についてご説明いたします。

1点目の中学校給食事業ですが、これは、中学生に対して、小学校と同様に食缶方式による全員給食の提供をという事業でございます。昨年度までに、中学校給食の基本構想・基本計画の立案が行われました。その計画に基づき、平成35年4月、これは令和に直しますと令和5年になりますが、令和5年4月の供用開始に向けて、本年度、計画に沿って進めさせていただきたいと思っております。

本年度につきましては、給食センターと農業センターを一体的な整備ということで、来年度の設計に向けて、その準備に当たっております。また、地区住民の方に対しては丁寧な説明を行い、今後、陳情等で臭気、騒音等、それから児童生徒の登下校による安全対策についても、ご意見、陳情をいただいておりますので、その対応について進めていきたいと考えております。

2点目の学校業務サポート事業ですが、この事業は、主に教員の働き方改革に伴う事業でございます。これは、四日市だけではございませんが、教職全体の労働環境の改善が指摘されている中、教職員の心身の健康、それに伴って、教育の質を担保するという意味でも、教員が担わなくてもいい仕事を精査することや教育環境を整えることで、子どもにかかわる時間を確保することや教育の質の向上につなげていく。また、人材の確保も難しくなってきていますので、そういった意味で、教育環境を整えることで優秀な人材を確保したい、そういった事業でございます。

特に、昨年度、学校業務改善アドバイザーのご指導もあり、学校業務アシスタント、それから部活動協力員については、モデル校を設置して、その効果を検証いたしました。そ

の結果、学校業務アシスタントについては、非常にそれぞれの学校で成果を上げたということもございまして、昨年度、モデル校6校でしたが、本年度に関しましては、小中学校全校、アシスタント1名の配置を行いました。

部活動協力員に関しては、昨年度、3名、本年度も3名なのですが、昨年度は、学校規模に応じて、小規模校、中規模校、大規模校にそれぞれ1名配置し、その効果の検証を行ったところ、小規模校においてより成果が上げられるというような検証結果でございましたので、本年度に関しては、小規模校3校に配置し、さらにその効果について検証しているところでございます。

それ以外にも、本年度9月からは、公務支援システムを試験的に導入し、その効果について検証し、来年度4月からの本格実施で公務の縮減、それから効率化を図ってまいりたいと思っております。

そういった教育環境の整備とあわせて、教職員の意識の改革、それから管理職のマネジメント、そういった勤務の縮減に関するマネジメントに関しての意識や技能の向上を目指しまして、そういった研修会を企画し、より縮減が実効的なものになるように取り組みを進めてまいりたい、そのように考えております。

以上です。

○葛西教育長 それでは、教育支援課。

○中村教育支援課長 教育支援課でございます。

教育支援課は2点ご説明させていただきます。

まず、学校におけるICT環境整備の推進ということでございます。

新学習指導要領の中にも、問題解決能力、情報活用能力の育成というあたりが大きな目玉となってまいります。特に、普通教室の授業において、児童生徒がタブレット端末を利用して、意見や情報を即時かつ視覚的に交換することによって、対話的な学習を活性化させることができると考えています。

また、タブレット端末をはじめとして、ICT機器を活用としてみずからの考えを表現し合い、互いに学び合うような協働的な学習が推進できると考えておりますので、ここに書かせていただいたように、この推進を今年度図っていくということで、まずは小学校に40台タブレット端末を配備し、それに伴って、当然、各教職員がどう使うのかというあたりが非常に今後重要となってまいりますので、そういった研修を進めながら、具体的な効果の検証を行っていきたいと考えております。

2点目が、登校サポートセンターの機能充実における不登校対策ということで、現在、ふれあい教室は中央緑地のところにあるんですけども、この登校サポートセンターの相談室や学習室の増設、人的配置を含めた運営体制の見直しを行い、不登校児童生徒支援の充実を図るということを考えております。

特に、課題として、本市の不登校の発生率が高い状況があるんですけども、一方、そういったことに対する人的配置等も対応がされていないということ、それから、見学には訪れるんですけども、そこが通級につながらないという、そういう児童生徒もいますので、そういったところに手を加えていくということと、それから、学校へ、あるいは家庭訪問等のアウトリーチを行って、通級率の向上に努めるというあたりを今年度主に行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○葛西教育長 人権・同和教育課、お願いします。

○相馬人権・同和教育課長 人権・同和教育課長の相馬でございます。よろしくお願いたします。

6ページをごらんになってください。当課の主要課題として2点挙げさせていただきました。

1点目です。学校支援地域本部推進事業です。

いわゆる地域子ども教室と呼ばれるもので、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちを対象にして、基礎学力の向上、定着、学習習慣を身につけるということを目的に、退職教職員、学生など、地域住民等々にお力をかりて展開をしている事業でございます。平成26年度から、西笹川中学校区、三重平中学校区、中部中学校区、大池中学校区の4地域で展開をさせていただいております。

課題としましては、学習支援員やボランティアの確保、これがまずもって喫緊の課題ということになります。長期的には、希望する全ての中学校区が活用できる制度にしていく、そういったことを考えていきたいと思っております。

今後の対応ですけれども、ボランティアの確保につきましては、退職教職員の集い、そういった組織がありますので、そちらや、あるいは県内の大学を訪れてボランティアの確保、募集に努めたいと思っております。

一方、この事業につきましては、国県の補助事業でありまして、文科省の今後の動向を注視したいと思っておりますが、県に4月当初に確認をしたところ、まだ国の動向についてはキ

ヤッチをしていないというようなことでもございました。今年度まで、この予算措置は担保されているわけですが、次年度以降、未定というような状況でございます。

2点目です。中学校ブロック人権文化創造事業です。この主たるものにつきましては、子どもたちの人権尊重の精神を養って、差別をなくすための実践力を育てるということで、子ども人権フォーラムというのを小学校、中学校で合同でやっております。多くは、具体的に小学校6年生と中学校1年生で展開をしております、人権のテーマを掲げて、そのことについて互いに意見を交流するという子ども主体の学びの場をつくっております。全ての中学校区で展開をしておるところです。

課題としましては、参加をする該当学年は、当然学びということで非常に大きな意味を持っていると考えておりますけれども、それぞれの学校へ帰ったときに、その学びを校内で発信、交流するということでもさらにここを広げていきたいと考えております。そのために、私ども指導主事が全ての中学校区に入らせていただいて、人権フォーラムの計画から指導、助言、支援をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○葛西教育長 ここまでご質問があればよろしくお願いたします。

○豊田委員 ICTのタブレット端末というのは非常にたくさん導入していただいておりますがたいんですけど、機器導入による具体的な効果検証と挙げていただいておりますけれども、これから考えていくことではあるとは思いますが、具体的な効果って、どういうふうに考えていらっしゃるのか、わかる方法。

○中村教育支援課長 具体的な効果の検証については、これから検討に入るところなんですけど、例えばこれがそのまま学力と反映されるかということ、学力はもっとこれ以外の要素もたくさんありますので、そこの関係となると、すぐには効果としてあらわれるかどうかということについては、今後見ていかなければならない。

1つ考えられるのが、例えば教職員であるとか、子どもたちへの質問紙によって、このことが非常に効果的に進むようになったとか、授業の準備が効率的にできるようになったとか、そういうあたりで教職員への質問等で一定の効果は図れるかなというのは、現時点では考えているところです。

○加藤委員 関連して、私も、質問ではなかったのですが、次に要望をするんですけど、タブレットに関して、昨年度も岡崎の小学校へ視察にやっていただいて、何よりもタブレットの導入は1つの手段であって、あくまでも授業改善というのか、授業を変えていく、そこ

へ結びつけて、今後も、タブレットの導入なり、普及を図っていただかないと、今も豊田委員もおっしゃったのもそのあたりだと思うんですけど、物だけ増えて、どんどん使いましょう、使いましょうではもったいないので、あれを授業に生かすことによって授業改善に努めるのであって、大もとは授業改善というところへキーワードは置いていただいて、ぜひぜひ推進をいただくといいのかなと思ひまして、要望をしたいと思ひます。

○葛西教育長 そのあたりの対応、対策については？

○中村教育支援課長 あくまでも、今、おっしゃっていただいたように、主体的、協働的な深い学びという新学習指導要領があつて、タブレットをどう使つて、授業をわかりやすい、あるいは子どもたちの考えを深めるといふあたりで使つていくということがありきですので、出前研修を今考えているんですけども、これは、夏休み以降、導入された後、ほかの指導主事が学校へ出向いて、今おっしゃっていただいたような趣旨をまず大前提に置いた上で、効果的な使い方というあたりで各学校には還元していきたいと考えています。

○加藤委員 よろしくお願ひしたいと思ひます。

○葛西教育長 タブレットですと、まずは情報活用能力と。だから、一番知りたひことについて情報をとつてくると。それらを自分にほんとうに必要なものかどうか吟味したり、あるいは比べたりしながら比較していくと。今度はそれを活用して、どう自分の考えを深めていくか、あるいは授業の中でそれを活用して、どう授業をさらに進めていくかという、何段階かあるかと思ひますよね、情報活用能力について。だから、こうするところうふうな授業の取り組みができるんですよという、そういうものも含めて研修も進めていくといふようなことになるのかなと思ひます。

岡崎へ行つたときに、いろいろ資料をいただきましたよね。あの資料の中に、A4 1枚の中で、このタブレットをどう使うかということがちゃんと位置づけてあつて、こうすれば、こうやって使つて、こんな授業が組み立てられるんだなと、子どもの思考はこうやって深まっていくなんだなといふのがありましたから、ああいうものも参考にしながらやっていきたいなどは考えております。

○加藤委員 きつと今までの授業スタイルと大きく意識を変えないと、タブレットを導入してやっていくのにも教育の意識改革が随分要る。今までの教師主導のといふのは、ちょっと言い過ぎですけど、そういうスタイルの授業とはちょっと違ふ。単に、今、教育長がおっしゃった情報活用能力といふのは、一人一人の子どもたちがタブレットといふ道具を使いながら、それを豊かに形成していく過程といふのは、先生のかかわり方も随分と今ま

でとは違うと思うんですね。

はい、何々しましょうねって、タブレットの使い方を教えて終わりということになってしまっただけの本末転倒ですので、先生の立場というのか、45分なり、50分の授業の展開、あるいは1つの単元の展開が随分変わるような気がしますし、ましてそれが1クラス分のタブレットがあるわけですから、ちょっと意識を変えないと、なかなか皆さん方が目指していただける情報活用能力の形成とか、新しい学習指導要領のつけたい力というものと直結していかないようにも思いますので、ぜひぜひそのあたりは、支援課長、びしっと指導いただきながら導入を進めていただくといいと思いますね。

○葛西教育長 ちょうど教育支援課長は、平成21年に電子黒板を導入したときに、それをどう授業で活用していくか、深めていくかということをやってきていますので、多分頭の中には構想はできておるかと思います。よろしくお願ひいたします。

ほかにいかがでしょうか。

○豊田委員 学校アシスタント事業のことなんですけれども、部活協力員、私、自分の理解ができなかった、去年は学校規模を変えて配置しましたけど、今年は、小さいところというと、今年は小さいところだけ3校配置するということ？ 規模が違うと比較ができるけど、小さいところを3校で、去年配置された大規模校とかは1年で外されていくということなんですか。

○内村学校教育課長 学校教育課です。

できれば、学校規模関係なく、全ての学校に配置できるというのがベストなわけですが、現状の中、昨年度、学校規模を変えて入れた中で、大規模校での活動状況に比べると、小規模校のほうが先生方の負担が減るようなかわり方が可能であるということがある程度検証がとれましたので、それをさらに、やはりそうなんだ、あるいは小規模校においてこういう活用の仕方をすれば、小規模校での部活動の負担の軽減が図れるんだということをさらに確証を持ったものにするために、本年度については、小規模校ばかり3校に配置いたしました。

○加藤委員 学校はどこへ行ったんですか、3つは。

○内村学校教育課長 済みません、後ほどお伝えさせていただきますので。

○葛西教育長 一方、部活動指導員の導入と。今、小規模校には協力員というものなんですけれども、中規模校、大規模校については、要は、単独で指導もできる、それから土日に引率できる、あるいは試合等の監督もできるという、そういう制度設計をしていくと。

これで一番肝心なところが、要は、そういう人材がいるのかどうか。今、ボランティアでかなりの協力をいただいておりますけれども、そういうボランティアの方がこういう部活指導員にきっちり手を挙げていただいて、あるいは指導も監督も責任も負える、そういう体制をとっていけるのかどうかとか、そのあたりもあわせて検討していくと。ですから、四日市の場合は、部活動協力員と、それから部活動指導員と、これを並列させていきたいなというのが今の考え方で、それをこの31年度の中で制度設計していくということになります。

よろしいでしょうか。

それでは、社会教育・文化財課、お願いします。

○川尻社会教育・文化財課長 7ページになります。社会教育・文化財課です。よろしくをお願いします。

3点挙げておりますが、うち2点は久留倍に関することになっております。

1点目が、久留倍官衙遺跡保存活用事業の整備事業でございます。平成30年度については、公園整備のメインになります八脚門の復元建設を行いました。今年度は、整備完了年となっております。内容としましては、残りの分の遺構表示、それから園路の整備、また公園西側に屋外トイレを設置します。それに附随する工事。あと、道路案内標識を設置する予定をしております。

その中の課題としましては、昨年度まで文化庁の補助金のシーリングがかかっておりました関係で、工事がいろいろ後ろ倒しになっております。31年度、最終年度にたくさんそこに詰め込まれているような状況です。特に土木工事がたくさん残っております、年度内に完成するのが難しい可能性があるというところが課題になっております。

今後の対応としましては、実際に工事の設計、発注を行う担当部署としっかり調整しまして、工期を少しでも詰められる部分を探りながら進めていこうと考えております。

2つ目につきましても、久留倍でございますけれども、こちらは活用事業です。

昨年3月にオープンしましたくるべ古代歴史館が1年たちまして、来館者数の目標が5,500人としておりましたところ、6,000人ほどの方にご来館いただきました。開館以降、開館29年度中に1週間ぐらいありますが、累計で6,780人となっております。全体オープンについてはもう少し待っていただくこととなりますけれども、引き続き久留倍官衙遺跡の魅力を発信する事業を行っていきます。

課題としましては、年間を通しての目標は達成しましたけれども、12月以降、来館者

が少し落ち込んでいるようなところがあります。3月は、また八脚門の現場見学会という大きなイベントがあり、その分増えておりますが、来館者数をどうやって増やして維持していくかというのが課題と考えております。

またもう一つは、全体オープン後の管理体制を詰めていきまして、規則改正も行う必要が出てまいりますもので、そちらをしていくことが課題と考えております。

今後の対応としましては、公園が完成しておらず、また、くるべ古代歴史館には、講演会を開催するような部屋がないということもあり、イベントというのが難しいですが、近くにありますあさけプラザを利用しまして、効果的なイベントを開催することを工夫してまいりたいと思っております。それをもちまして、リピーターや、もっと広く市外、県外からの来館者を増やしていこうというふうに考えております。また、全体がオープンした後の利用時間や管理など、公園の部分の管理運営方法を定めて、円滑に運営が行えるように進めていきたいと考えております。

3つ目につきましては、旧四郷村役場の保存活用事業というところで、市指定文化財になっております旧四郷村役場ですけれども、築98年になります。耐震対策が未実施となっております。老朽化も著しい状況であります。これを将来に向けて保存、活用していくために、耐震補強及び修理工事を行うということを予定しております。

課題としましては、文化財的価値を残しつつ耐震補強、修理工事を行う必要があるため、工事費用が相当かかるということが考えられますもので、整備計画を進めること自体を了解を得ていくということが課題と考えております。

今後の対応としましては、この建物のことですか、文化財的価値など、広く市民の方々に知ってもらい、理解を得ながら整備計画を進めていくということで、そのために、今年度は、講演会や、シンポジウム、現地見学会などを行いながら、またアンケートなどの方法で市民意見の聴取も行おうと考えております。

以上でございます。

○葛西教育長 それでは、図書館。

○大森図書館長 資料8ページをごらんください。

図書館は2点挙げさせていただいております。

まず、1点目、新図書館を含む中心市街地拠点施設整備事業における可能性調査検討についてでございます。

昨年の11月定例会議会におきまして、立地場所最終確定のための調査予算が可決され

ております。当初の市庁舎東側広場のほか、近鉄四日市駅直結エリア、JR四日市駅直結エリアを加えまして、この3候補地で可能性調査を進めて、今年の秋にも新図書館の立地場所を確定する予定でございます。それにあわせまして、教育委員会として、具体的な内容につきまして検討していく必要があるというものでございます。

今後の対応といたしましては、先進事例の情報収集など、先進市視察といったことを行いまして、具体化に備えた調査研究を継続して行っていくというものでございます。

2つ目、子どもの読書活動の推進についてでございます。

平成30年4月に、国から、子ども読書の推進に関しまして、特に高校生の不読率が依然として高いということで調査を行ったところ、1つには、中学生までの読書週間の形成が不十分であること、また、高校生になり読書の関心度合いの低下が見られること、そして、スマートフォンの普及等による子どもの読書環境への影響の可能性があるといったことが明らかになってきております。

そういった中で、発達段階ごとの効果的な取り組みの推進、また、友人同士で本を勧め合うなどの読書への関心を高める取り組みの充実、こういったことを着実に進めてほしいという通知が来ております。図書館でも、利用者が少なくなる小学校高学年、中学生、高校生といった世代に興味を持ってもらうような事業を展開していく必要があると考えております。また、高校生につきましては、3階学習室から成人コーナーへと高校生を誘導するような取り組みを検討する必要があると考えております。

今後の対応といたしましては、工作教室の開催や、また地域に関する講座等を開催して、図書館に来館していただくきっかけとなるような事業を行っていくと。また、3階学習室におきましても、高校生が興味のあるような本の紹介などを通じて、本を読むきっかけとなる取り組みを行っていきたいと考えております。また、高等学校と連携した取り組みも検討していきたいと思っております。

説明につきましては以上でございます。

○葛西教育長 博物館、お願いします。

○廣瀬博物館副館長 9ページをごらんください。

博物館からは、2点主要課題を挙げさせていただきました。

1番、天文系のプラネタリウム関連業務の委託化についてです。

平成27年3月に、博物館プラネタリウム施設をリニューアルしました。これによって、高性能の投映機器を導入し、プラネタリウムの番組制作や投映業務において、それまでで

上に高度で専門的な知識と技能を必要とするようになりました。職員の異動を伴う現行の体制では業務の継続が困難な状況となっており、平成30年度に直営外部委託における業務の割り振りや天文普及事業を含めた天文系の体制のあり方について、見直し、検討を行い、業務の外部委託化について段階的に進めることにしております。

平成31年度は、より専門的な知識を要する番組制作に係る業務について委託をし、平成32年度以降は、天文普及などの一部の業務を除く主要業務の全てを専門事業者へ委託し、天文関連業務がより効果的、効率的に運営されるよう取り組みを進めてまいりたいと思っております。

課題としては、サービスの低下を招くことなく満足度の高いプラネタリウム業務を受託できる事業者を引き継ぐことということで、今後の対応として、直営で行う業務と委託化する業務について、平成30年度に検討してきた結果に基づき、業務委託契約に要する適切な予算を編成、確保するとともに、外部委員を含む審査委員会による公募型プロポーザル方式により、受託事業者の選定を行い、平成32年度からの業務委託の実施に向けて円滑な引き継ぎを行っていくということです。

そして、2つ目、そらんぼ四日市の魅力アップのための3施設の有機的連携についてです。

四日市市立博物館が四日市公害と環境未来館を併設する形でリニューアルして5年を迎えます。そらんぼ四日市という総称のもとに連携を図りつつありますが、さらにうまく機能させるために、3施設の持つ個別の特徴を有機的かつ効果的に合わせ、市民にとってより魅力的な施設とするものです。

課題としては、博物館、プラネタリウムと四日市公害と環境未来館が相互に連携や補完し合うことが現状では十分に機能しておらず、また、博物館で実施する事業、業務内容が年々増加している中、事業の見直しや専門的知識等を有する職員の配置も困難となっており、将来にわたって取り組むべき業務に対応できるよう、人材や予算の確保を不可欠としています。

今後の対応として、現在抱える課題を従事する全職員で共有し、そらんぼ四日市がより魅力的な施設として市民に受け入れられるよう一丸となって取り組む。そして、最重要、かつ喫緊の課題である学芸員や解説員の不足人員の確保について、今後のプラネタリウム投映等業務の一部外部委託化も視野に入れながら、専門職員の採用と育成等、適切な人材、人員の確保を要望していきたいと考えています。

以上です。

○葛西教育長 このところでご質問があれば。

旧四郷村の役場の保存活用事業でありますけれども、これは、四郷地区の伊藤傳七さんという方が、三重紡績、それから東洋紡をつくられた方なんですけれども、その方が私財をなげうって四郷村の役場をつくっていただいたと。それを今、私どもとしては、郷土資料館としておるわけなんですけれども、きのうでしたか、渋沢栄一が新1万円札にデザインされるとの報道がありました。実は、この伊藤傳七さんが三重紡績をつくっていくに当たって、非常に資金が困難であったと。それを三重県知事に頼んで、県知事から渋沢栄一に資金援助をお願いして、そして発展させていったという、そんな経緯もあるわけなんですよね。

だから、当時の明治、大正時代の四日市の近代産業化に貢献した伊藤傳七さんの当時のそういう活躍ぶりなんかを見てみると、四日市の歴史というものが、また新しいところに光が当たっていくんじゃないかなと思いますので、建物と、それからこの近代産業の発展していくという、そういうものも合わせて広く情報発信して、これを保存活用していくためにかなりの金額が要りますので、市民の皆さんや議会の皆さんの了解を得つつ、しっかりとしたものをつくっていききたいなというようなことを思っておりますので、これはぜひ。また、シンポジウムをやりますので、教育委員さんにもご案内していただいて、参加をしていただければと思いますので、お願いいたします。

○加藤委員 質問ですけど、図書館の、この近鉄四日市駅直結エリアとか、JR四日市駅直結エリアという表現ですけど、具体的にはどんなイメージになるんですか。これも、教育委員で視察に行った、一宮ですか。駅の上にとんと図書館をつくって、というイメージはまさに直結エリアにイメージするんですが、ちょっとイメージが膨らんでこないんですけど、これはどういうことですか。

○大森図書館長 市役所東側広場は1つ案が出てきております。それと、近鉄四日市駅直結エリア、JR四日市駅直結エリアのそれぞれで3案づくり、合計7案の中から絞り込んでいくという話で聞いております。

○加藤委員 直結というのは、いわゆる歩いて1分か2分の距離のところエリアを探すと。

○大森図書館長 どこまでというのは出ていないんですけれども、その周辺エリアということで考えております。

○加藤委員 駅舎の上に建物をつくるとか、そういうものではないんですね。

○大森図書館長 もしかしたら、また調査の中で検討されるかもしれません。

○加藤委員 一応ありですかね、選択肢としては。わかりました、ありがとうございます。

それと、発言したついでに、博物館なんですけど、いわゆるいろいろご苦労いただいておりますけど、検討いただく1つの項目として、四日市の博物館が、プラネタリウムはほんとうにすごい施設を導入していただいておりますが、あと何に特化して、このごろ小さい水族館でも、ここはすごいというのが全国各地にできていますので、博物館も、いろんな幅広く博物、美術と広げてもらっていますけど、あそこの中で、四日市の博物館として存在感を増していくためには、何か1つぴりっとするものを考えていただくのも。四日市にしかない、あるいは、県をまたいででも、四日市へ来たいというところも、これは実現可能かどうかわかりませんが、検討いただく。そして、いわゆる産官の魅力をアップしていただくというのも1つではないかなと思いましたので、あえて申し上げました。

○廣瀬博物館副館長 ありがとうございます。

博物館とプラネタリウムという、一般的には理科と社会とか、そういうイメージで捉えられるものなんですけれども、宇宙というのは、ほんとうにすごい時間の流れというのを感じさせるもので、私たちの人生というのは、宇宙の流れからすると、ほんとうに一瞬ぐらいなんですよね。そういう時間の大きな流れを感じるということと、それから、四日市の歴史というものを、日本の歴史であったり、あるいは世界の歴史であったり、その中の1コマと捉えることで、自分たちのまちの成り立ちであるとか、あるいは将来であるとかといったものにも興味や関心を持ってもらえる。プラネタリウムと博物館、あるいは環境未来館が3つあるということをもっとよりうまく機能させて、四日市であれば、特に1つには、環境とか、宇宙と地球とか、そういった問題で1つ考えることもできますので、1つの物の見方というか、そういったものを博物館で感じていただいて、いろんな気づきもそこで見つけていただいて、自分たちの暮らしであるとか、人生に何かしらの変化、影響をもたらすような、そういう場所となるように頑張っていきたいなと思っています。

○葛西教育長 今年、リニューアルで5年目で、未来館と博物館が一緒になって、テーマはどういうテーマだった？

○廣瀬博物館副館長 今回は、地球の彩りを宇宙からということで、JAXAともいろいろご協力をいただいているんですけど、宇宙から見た地球というものを色で環境を見ていただく。砂漠であるとか、森林であるとか、湖であるとか、そういったものをまず見ていた

だく。そして、それを今度はプラネタリウムでも特別番組をつくって、展覧会とプラネタリウムの投映というものを2つ合わせて見ていただくような、そういう取り組みを今年度行います。

○葛西教育長 まず、今年はそういう先駆けとしてこのような取り組みをすると。環境というのは、四日市が、これは一番財産としてあると。そこにプラネタリウムがあると。それから博物館の四日市の歴史があると。そしてJAXAがあると。それらをどう有機的につなげて四日市らしさを出していこうという、そういうことにこれからしっかり取り組んでいこうという、そういう意気込みで博物館はおりますので。これは、今度の総合計画の中にも、このそらんぼ四日市の魅力アップのための3施設の有機的連携についてしっかり議論して、総合計画の中にも位置づけていこうという、そういう意気込みでありますので、またご意見もいただきたいと思えます。

○加藤委員 一遍、博物館という名前をリセットするくらいの気持ちでやっていただくと、すごい連携が生まれてくるのかわかりませんね。博物館、環境、プラネタリウムとこう分けているうちはなかなかあれですが、一度、博物館もやめて、今ある施設の中でどう魅力的なエリアにさせていただくかということは、結果的にはまた博物館になるかわかりませんが、検討いただく中では、ちょっと大胆に検討いただくといい案が出てくるのかもわかりませんね。

○廣瀬博物館副館長 ありがとうございます。

○葛西教育長 新しい価値を見つけていこうというのが今年の市長のいわゆる肝いりでやっていますので、これなんかも新しい価値をそれこそ見つけていきたいなというような、そんなことを思っています。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

4 閉会

○葛西教育長 それでは、次回のことについて教育総務課長から説明をお願いします。

○長谷川教育総務課長 次回でございますが、来週水曜日でございます。4月17日9時半から、定例会教育委員会会議というところで、こちら教育委員会室で開催の予定をしています。どうぞよろしくをお願いします。

○葛西教育長 これで教育委員会会議を閉会いたします。どうもご苦労さまでございました。

午後 5時 3分 閉会